

小中学校学習指導案の表記に関する工夫 ー板書型学習指導案に着目してー

Devices Concerning Notation of the Teaching Plan for Elementary School and Junior High School : Focusing on the Board-work Type of Teaching Plan

溝 邊 和 成*
MIZOBE Kazushige

本報告では、小中学校学習指導案の表記上の工夫として、板書型指導案を取り上げ、それらが、どのような特徴が見られるかを明らかにしている。山口県および北海道で作成された資料を調査対象とした。資料分析ならびに活用経験者への面接調査の結果から、次の点が特徴として得られた。

山口県における板書型指導案は、1 ページを3つのエリアで区分し、1つのエリアに板書が配置され、他の2エリアには「主眼（ねらい）」や「指導上の留意点」、「本時の流れ」等が設定されていた。3区分の工夫として、形式上のバリエーションも見られた。エリア間の記述の整理や単元全体の表記等に課題があった。北海道の板書型指導案では、カラー刷りの2ページ見開きとして作成され、配色の工夫がなされていた。また「資料活用のポイント」や「教師の発問」「予想される子供の反応」など全てのページにわたって記されていた。ICTの活用等とともに書き込みや保存が可能であることが望まれた。活用経験のある教員は、いずれの板書型指導案も、教師の教材研究や授業実施に役立つととらえていた。

キーワード：学習指導案、板書型、表記上の工夫、ビジュアル化

Key words : teaching plan, board-work type, design of notation, visualization

1 はじめに

昨今、「主体的、協働的で深い学び」が注目され（文科省2018）、活動的なシーンを特徴とする授業を示す一つの道具として、子供の様子をより確かに表す学習指導案のフォーマットの需要が高まりつつある。この点に関する研究には、低学年期においてフィールド活動を重視し、イラストなどを取り入れた学習指導案（ラーニングスケッチ^註）の工夫が僅かながら見られ始めている。関連する研究として松田・溝邊（2017）は、ラーニングスケッチの一形式とした小学校理科のビジュアル化した学習指導案を用意し、それに対する教師の意識について検討している。具体的な授業イメージが促進されるなどの効果が見られている。

上記の取り組みで共通する重要な要素の一つに、学習環境図（教室の机・椅子の配置、教材の設置場所、活動場所の特徴等記載）や板書計画が挙げられる。プランニングとして特徴付けられた学習指導案では、多くの場合、活動場面の状況や指導内容等が環境図や板書によってフォローされている。

そこで本報告では、小中学校学習指導案の表記上の工夫の一つとして挙げられる「板書」に着目し、その活用が反映された学習指導案について取り上げる。特に板書が指導案と一体化したり、主要な部分を占めたりしてい

る「板書型指導案」に焦点付け、その特質をとらえることを目的とした。

2 調査対象・方法

第一の調査対象資料として、山口県教育庁義務教育課の「授業づくり拠点校研修会事例集（平成27年度）」に見られる板書型指導案ならびに同課が示す「板書型指導案活用のすすめ」を対象としている。また、本指導案の作成経験のある同課の職員2名（男性1名、女性1名）を対象に面接形式で、長所と改善点について質問を行い（20分程度）、その回答を整理した。実施時期は、平成30年3月2日であった。これ以降、ここで対象とした板書型指導案を「板書型指導案1」と称する。

第二の調査対象は、北海道社会科教育連盟が作成している社会科板書型指導案（2008年版、2016年版）の冊子とする。本連盟のメンバー（男性教員1名）と北海道S市内小学校の職員（女性教員2名）に面接し（各15～20分程度）、板書型指導案を作成・活用した時の感想から、長所と課題、改善点を整理した。実施時期は、平成30年3月13日であった。

第一調査の資料と同様に、対象とする社会科の板書型指導案を「板書型指導案2」とし、2008年度版は板書型指導案2a、2016年度版を板書型指導案2bとする。

* 兵庫教育大学大学院教育実践高度化専攻授業実践開発コース 教授

平成30年4月25日受理

3 板書型指導案 1

1) 板書型指導案 1 の形式

板書型指導案に関しては、安達（2009）や中村（2015）の実践報告の他に、先行研究として前原（2016）の報告が挙げられる。その報告によれば、山口県で扱われている板書型指導案 1 は、板倉豊氏（平成30年現在、小学校・校長）の発案によるもので、1 ページ記述方式で表記項目として主題、板書計画、発問・留意点等に分かれている。山口県教育庁義務教育課の資料では、以下のように表示されている（図 1）。

このような形式を提示しながらも、板書型指導案 1 は、柔軟性と可逆性が特徴だとしている（前原2016）。次節では、具体的な工夫点について検討した結果を示す。

〇年〇組『〇〇〇〇』

平成 年 月 日（ ）
指導者

1 主眼（ねらい） ① 2 指導上の留意点 ↑ ② ↓ ☆ 評価	③ 1 2 3 4 ④ ↓ ↓
--	--------------------------

- ① 主眼（ねらい）：「〇〇に着目し、〇〇する活動を通して、〇〇が理解できる」などの表現で記述します。
- ② 必要に応じて記述します。
- ③ 「板書型指導案」の最も必要な要素である板書計画を書きます。授業の「めあて」や「まとめ」、構想している授業展開、予想される児童生徒の意見などを、構造的に、明確に表すように工夫します。
- ④ 児童生徒の学習活動を促す発問や思考を深める発問などを書きます。主発問は大枠にするなどの工夫も考えられます。

図 1 板書型指導案 1 の形式

2) 板書型指導案 1 の分析

前原（2016）の報告に示された整理表では、課題の具体性、発問、予想される反応、まとめの 4 項目において出現率を示し、その特徴を述べている。本稿では、各板書型指導案 1 の項目と形式に見られる特徴を検討する。分析対象は、「授業づくり拠点校研修会事例集（平成27年度）」（山口県教育庁義務教育課）に示された42件の板書型指導案 1 とした。

板書型指導案 1 のフォーマットの特徴は、図 1 に示すように A4 用紙の長辺を上下にして 3 区分されている点である。第一の分析ポイントは、その点に沿った表記になっているかである。第二は、項目の加除も含め、項目

がどのように使われているかである。第三は、オリジナルなアイデアが加えられているかである。第一ポイントは、3つの区分とともにエリアの配置バランスなどが基本型（図 2、以下「に」タイプと称する。）に一致している場合を準拠 A、面積比が異なっているが、3つのエリアが同じ位置にあれば、準拠 B、エリア数が増減している場合は破格 B、エリアの配置や面積が変わったり、項目設定も異なったりしている場合は、破格 A として分類する。第二のポイントについては、それぞれのエリアに記載された項目を取り上げ、第三のポイントも記述するようにした。

第 1 エリア	第 2 エリア
	第 3 エリア

図 2 板書指導案 1：「に」タイプ

3) 板書型指導案 1 の分析結果と考察

結果は、表 1 に示す通りであった。板書型指導案は42件が収録されており、そのうち国語科は小学校：7校11件、中学校：7校7件であった。また算数科：小学校は7校8件、数学科：中学校は7校8件であった。さらに理科は、小学校1校1件、中学校7件であった。

形式については、小学校国語科は、11件中、準拠 A：5件、準拠 B：4件、破格 A：2件でいくつかの変化したタイプが見受けられたが、小学校算数科では、8件中7件が準拠 A で形式的なバリエーションは少なかった。逆に中学校の板書型指導案 1 では、国語科が7件全て準拠 A を示し、理科も7件中6件が準拠 A であった。それに対して数学科は、8件中3件が準拠 A であったものの、その他の4件が破格 A、1件が準拠 B であった。理科においては、小学校で1件中1件、中学校で7件中6件と準拠 A の件数が大半を占めていた。

第 1 エリアの記載については、1 番目に「主眼」または「ねらい」を掲げ、2 番目を「指導上の留意点」、3 番目「評価」としている準拠 A は、42件中29件を占めていた。第 3 エリアに見られる「本時の流れ」の表記も30件を数え、形式として受容・踏襲されていることがうかがわれる。

準拠 A の中での工夫点と見出されるのは、第 2 エリアでは、イラストや図を提示したり、めあてを枠で囲ったりする点のほかに、エリアをグレーにしたり（No.21）、ナンバリングしている点である（No.13）。前者は明確に黒板とわかるようにするため、後者は、「本時の流れ」で番号のついた活動と黒板上の表記と合わせるための工夫である。

第3エリアでの工夫点として、発問・指示を表す吹き出しが見られる（No.7、No.8、No.9、No.14、No.22）。それぞれが発問の吹き出しであったり、指示の内容であったりする。第3エリア全体を1つとせずに、3ないし4区分してまとまりをつけているケースもあった（No.12、No.14、No.15、No.16）。また各活動に対する時間表記がなされているものがあった（No.10、No.16、No.23、No.27、No.35）。No.42の理科指導案では、時刻表記がなされていた。いずれも限られた時間の有効活用のための工夫といえる。

破格Aに分類された板書型指導案1は、表1からもわかるように、No.6、No.11、No.30、No.31、No.32、No.33、No.41の7件であった。図3の分類から、No.6は、「二」タイプとなる。また、No.11、No.30、No.31は、「三」タイプとなる。「L」タイプはNo.32、「川」タイプはNo.33となり、「に」タイプ（図2）の反転タイプにはNo.41があてはまる。

No.6は、図2の第1エリアと第3エリアが融合されて上部に位置し、黒板部分の第2エリアは、下部に設定されている。上部では単元名をはじめ、ねらい、準備物、学習過程、指導上の留意点、評価まで記載されているのが特徴である。また下部の板書部分は、黒板の写真が添付されている。この点も他には見られない工夫した点といえる。

「三」タイプであるNo.11は、最上部に「主題」のみ横書き表記し、最下部には「授業の流れ・指導上の留意点」を縦書きにして収めている。中央部分は、黒板を挟む形で、ホワイトボードが配置されている。そこに示す内容（読み取ったことや感じたことを表す表現例や教科書の記述例など）は、板書を補填する形となっており、黒板の延長といえる。No.30、No.31の「三」タイプは、真ん中を占める板書計画の上に、1主題（ねらい）、2めあてを書き、黒板下の部分には、「授業の流れ」（左側）と「留意事項」（右側）をシンプルに示している。そうした工夫は、板書エリアを大きくし、黒板に注目しやすくしているといえる。

「L」タイプのNo.18、No.32は、いずれも第1エリアから第3エリアにまで一挙に説明していくのが特徴といえる。No.18は、「1本時のねらい」「2指導のポイント」「3評価」「4学習の展開」として、左上から右下への流れを大切にしている。同様にNo.32も、板書を写真で掲載しながら、その周りを左上から左下、そして右へ読み進めることができるように「1単元名」「2主眼」「3単元計画」「4本時の流れ」としている。単元レベルも述べている点も工夫されている。

「川」タイプは、板書の位置も大きく変化している。No.33は、第1エリアをそのままに左端にセットし、その右手に「本時の流れ」「板書」「板書」「本時の流れ」

と並べている。すなわち「本時の流れ」「板書」のセットが横に2つ並び、前半の板書は、左側に書くのでそれに合わせて、「本時の流れ」の前半部分はその左手に、後半の板書部分に合わせた「本時の流れ」は、二つ目の板書部分の右側に置いている。このようなアイデアは、黒板を分割して本時の時系列を配慮した板書を可能にしているといえる。

No.41は、「に」タイプの反転した形式となっているのが特徴である。左上に「1主題」を記述し、左下には「2本時の流れ」を置いている。その間に板書計画が示されている。それら3つを右側から「3指導上の留意点」と「4評価」を表記したエリアで支えている格好となる。板書左に寄せ、それを中心に項目内容を踏まえ、取り囲んだ形の工夫といえる。

4）面接調査結果（板書型指導案1）

板書型指導案1を作成した経験のある山口県教育庁義務教育課の職員2名（男性1名、女性1名）への面接調査は、長所と課題を質問項目として実施した。発話内容を要約すると、表2の結果となった。

表2 面接の記録（要約）1

	男性職員	女性職員
長所	授業を構造的に組むことができるようになってくると、1時間の授業改善に役立つ。 授業のイメージがわかりやすい。 算数などは描きやすいように思う。	自分の考えや思いを視覚化することになるので、指導の足りているところと足りていないところを自己モニタリングできる。 授業記録として活用できる。
課題	第1エリアと第3エリアに書かれる留意点が重なるってしまう。	全体の指導案が書けてこそ、その効力を発揮するように思う。

このような結果から、板書型指導案1の長所として、授業をイメージしやすく、自己モニタリングのツールとしても役立ち、1時間の授業改善に有効であるととらえていることがわかった。男性職員が述べるように、形式としては、第1エリアにある「主眼（ねらい）」の次に示す「指導上の留意点」は、第3エリアの本時の展開に沿って記す留意事項と重なる場合があるので、大枠と細部としての扱いなど、その差異化を図ることが望ましいと推察される。また1時間の板書計画のみならず、全体の指導案が書けてこそ、その効力発揮があるのではないかとの意見からは、指導案全体へのフィードバックが考えられる。

4 板書型指導案2

1) 板書型指導案2aの分析

北海道社会科教育連盟研究出版部発行2008年版である板書型指導案2aは、「社会科板書型指導案 Vo.1」として全33ページからなり、「5年『住みよいくらしと環境』～環境を守る～」と題されている。「本書の使い方」(同冊子p.3)には、次のように記されている(図4)。

図3からもわかるように「1 教科書を使おう」「2 板書から授業を考えよう」「3 発問・指示・まとめでパッチリ進めよう」で解説され、板書にかかる部分の「発問・指示、まとめ」の箇所も教師の顔のイラストと番号が付してあり、説明が加えられている。

図4に示すように、板書型指導案2aは、一番上に白抜きで本時のタイトルと全時間数の何時間めであるかを記している。その右端には、必ず教科書の該当するページ数が付してある。中央には板書の写真が載せられており、その周りを教師の発問・指示が示されている。図4からもわかるように、教師の発問は、顔のイラストから出ている吹き出し(灰色)となっている。ここでは、①の発問から「指示1」「指示2」など時間表示とともに具体的な作業内容と流れがわかるようになっている。

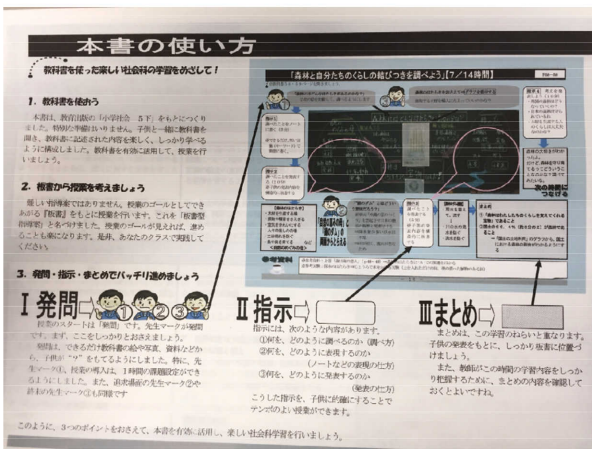


図3 板書型指導案2aの説明

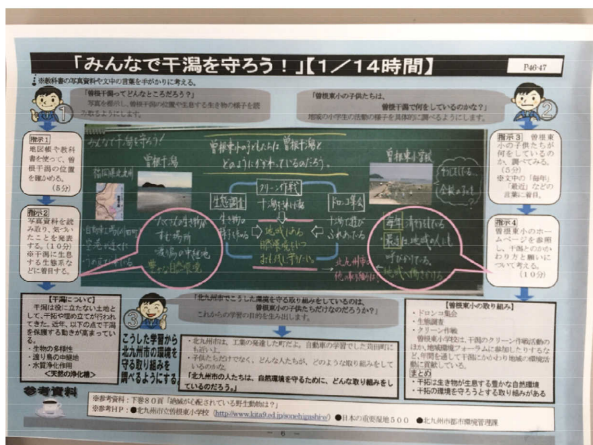


図4 板書型指導案2aの例

また、板書上に対応する箇所を吹き出し(赤色)で囲み、対応を表す工夫が見られる。「指示」の後に述べられている四角(うす灰色)は、ここで必要としている内容であり、まとめという形をとったりしている。図4では、子供の反応も見られる(黒板下中央)。最下段には、「参考資料」として、ホームページのアドレスなどが挙げられている。次のページには、板書で使った写真などが資料として掲載されている。以上、黒板は、白い字を基本としているが、3色(赤、黄、青)のチョークを使って文字の囲みや線を引いたりして見やすく、わかりやすくしている。

2) 板書型指導案2bの分析

2016年版である板書型指導案2bは、「私たちの生活と食料生産(Vol.10)」として「水産業の盛んな地域」(7時間)と「これからの食料生産とわたしたち」(4時間)を扱っており、計30ページ弱の冊子になっている。1時間の内容は、見開き2ページ分が当てられている。

見開き左側のページでは、図5の説明のように、左側には、主な学習活動を略案で紹介しており、その右側には教科書を使うポイントを紹介している。見開き右側のページでは、上部に板書計画が貼られており、レイアウトされた板書から授業のイメージを紹介している。黒板の写真の下部分は、「教師のかかり」のポイントを示している。

具体的な例を示すと、図6および図7になる。図6では、最上部分に本授業が単元の何時間目であるかが記され、本時の活動がタイトルとして掲げられている。その横にねらいも示されている。

二段目には、「本時の目標」(左側)と「評価基準」(右側)が置かれていることがわかる。またそれらの下に、「主な学習活動」(左側)が略図として表されている。ここには、黒板に掲示する資料も示され、板書と連動していることがわかる。また、本時のタイトルを、黄色の枠で囲み、到達させたい結論には赤色の枠で囲む工夫が

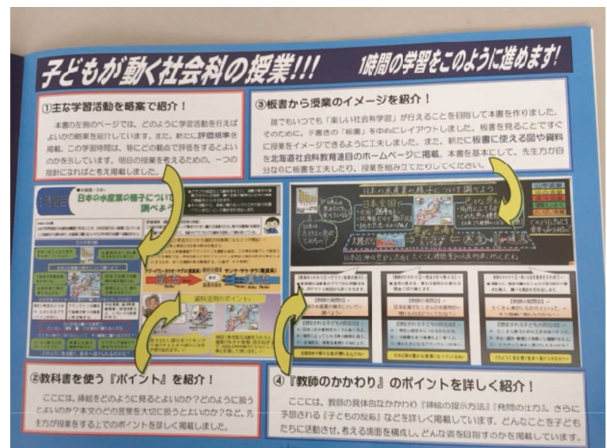


図5 板書型指導案2bの説明

なされている。さらに、児童の発言や考えなどもわかりやすいように緑色の吹き出しで示されている。

右側部分では、二つに分けて、上半分は、資料となる説明を丁寧にし、下半分では、資料活用のポイントとして具体的な資料提示の方法など細かく記載されていることがわかる。

図7では、上半分のスペースを使って板書の写真が添付されている。チョークも赤、青、黄の3色に加え、緑も使われている。図6で見受けられたテーマや結論を表す黄色や赤色の囲み、さらに子供の反応を示す吹き出しの緑色にも合わせていることがわかる。黒板下の部分では、「教師のかかわり」を3つ用意している。それぞれを踏まえて、「教師の発問」、それに対する「予想される子供の反応」および結論がセットになって視覚的にもわかりやすくまとめられている。

3) 面接調査結果(板書型指導案2)

板書型指導案2を作成・活用した経験のある男性教員1名と活用経験のある女性教員2名に面接(各15～20分程度)を行った結果をまとめると、表3の通りとなった。

表3のような結果から、意見をまとめると、色刷りで、かつシンプルな形で1ページに整えた形式であるため、

表3 面接の記録(要約) 2

男性職員		
長所	自分自身の教材研究にとっても役立つと思う。また、他のメンバーの社会科の授業力量形成もできる。1ページ分という使い勝手のよさがあり、リピーターもいる。また、カラー版なので、色使いでポイントが表現できるよさがある。「はじめ、なか、おわり」のようになっているとわかりやすく、扱いやすい。	
課題	作成に時間がかかるので、効率よくするのが課題。ペースになる出版社によって扱う資料等が若干異なる。配慮しておく必要がある。単元目標、評価基準、めあて・ねらいなどで同様の表現が多くみられるため、整理する必要がある。	
アイデア	全体の何時間目かすぐわかるように紙面の端にわかるようにする。ICTの活用も表記できるようにする。他教科にも取り入れてみる。	
女性職員1		女性職員2
長所	板書の流れをつかめるようになった。また授業の見通しが持てるようになった。	写真版がよい。具体的に色も分けて使ってわかりやすい。(教材研究の)時間がない時、サポートしてくれるので助かる。補助資料の説明や提示方法がとてもよい。
課題	他教科とのつながりが示されていない。	
アイデア	もっと写真を活用する。	他学年でも、このタイプの指導案があるとよい。書き込みができ、保存ができるようになると良い。イラストのバリエーションがあるとよい。子供が活用する資料も掲載する。

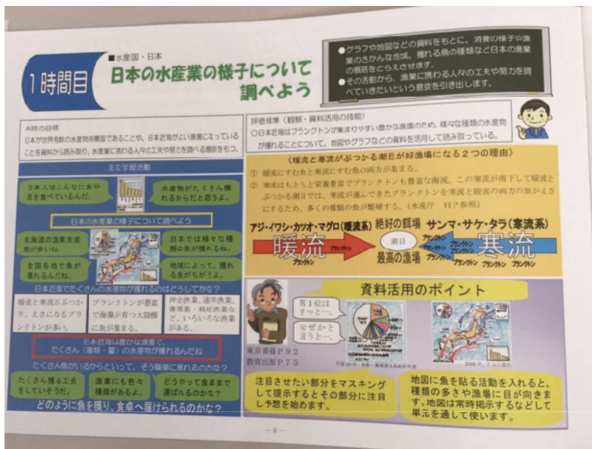


図6 板書型指導案2b-1

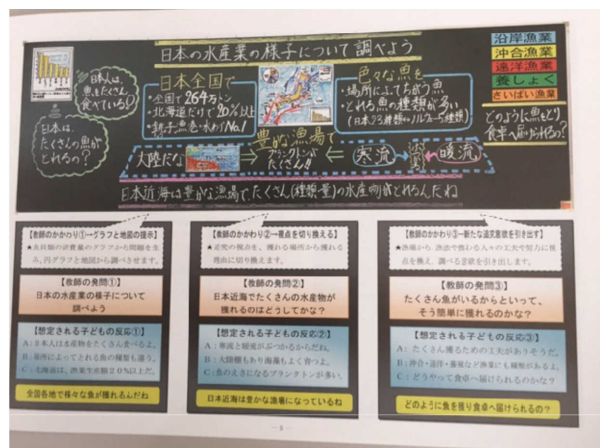


図7 板書型指導案2b-2

視覚的にもとらえやすい。また順番も追いやさく、わかりやすい。そのため、教師としての授業力などが高まるのが期待できる。しかしながら、課題として、作成に時間がかかるという点と、目標に関連する表記の工夫が挙げられる。改善のためのアイデアとしては、ICTの活用などで何時間目に取り組んでいるか明示したり、書き込み・保存・閲覧が自由にできたりすることが考えられる。また、子供用の資料を加える案も考えられる。

5 全体総括

本報告は、小中学校学習指導案の表記上の項目の一つとして挙げられる「板書」に着目し、その活用が反映された学習指導案を検討している。特に板書が指導案と一体化したり、主要な部分を占めたりしている「板書型指導案」に焦点付け、その特質をとらえることを目的とした。

2つのタイプの板書型指導案を対象に検討した結果、次の点が明らかとなった。

板書型指導案1では、3つのエリアからなる形式「に」タイプを用意し、それぞれのエリアの役割を明確にした項目を設定している点が特徴と言える。第1エリアは、

1 番目に「主眼」または「ねらい」を掲げ、その後「指導上の留意点」、「評価」とつづく点や第3エリアに見られる「本時の流れ」の表記も形式として受容されていたと推察される。

工夫点と見出されるのは、板書部分を示す第2エリアのイラストや図の提示、めあての枠囲い、ナンバリングなど、また第3エリアの発問・指示を表す吹き出しなどが挙げられている。いずれも視覚化することによって、指導の意図を示す工夫といえる。

「に」タイプのほかに、形式としてアレンジしている指導案も改善のためのアイデアととらえることができる。「二」「三」「L」「川」および反転「に」タイプは、いずれも板書（黒板）を中心としてその周辺にどのような内容を配置すれば、わかりやすきに集中した工夫点である。今後も板書する行為・順序等を反映させる周辺配置をいかにするかがより求められていくと予想する。

課題としては、面接によって得られた意見からもわかるように、第1エリアと第3エリアの留意点としている内容吟味が挙げられる。さらに、単元全体の目標や指導計画、展開との関係をどのように明記しながら、1時間の板書を位置づけるかという点がある。これは、視覚化を進めていく学習指導案全体の形式そのものにも波及する問題であるともいえる。それは先述の「ラーニングスケッチ」の可視化と分量（ページ数）のバランスに帰着する問題点ともとらえることができ、今後の大きな課題といえる。

板書型指導案2では、1つの教科の板書型指導案として提示し、単元ごとに毎時間のものを作成している。A4冊子の見開きタイプとして、1時間分を2ページにわたって、シンプルに図式化している点が特徴といえる。また、手書きの黒板の写真を掲載し、冊子全体を色刷りとしている点は、ビジュアル化した学習指導案作成において注目に値するといえる。色刷りの強みを生かして、それぞれの色に意味づけをし、統一感を持たせている点も見逃せない。社会科の教科特性として、グラフや図といった資料の提示、あるいは、実際の場所を示す写真や地図、貴重な史資料を黒板に貼り出した授業が多く見られる点で、黒板の実写版を提示する板書型指導案は、欠かせない学習指導案としてのアイデアと理解できる。

課題の一つとして、目標表記に関わる内容の整理が挙げられるが、作成過程上で解決できる課題だと予想する。またもう一つの課題として挙げられる内容は、作成・印刷・配布等に時間と相当な労力がかかる点である。

この課題に対して、提案されたアイデアから検討しておくのが賢明であろう。例えば、「ICTの活用」や「書き込みや保存ができるようになる」という考えを合わせれば、ICTを活用することによって、一旦作成されたものを何度もコピーしたり、修正したりすることがで

きる。さらにそれらを保存し、記録としても活用できることになる。また、教科書準拠である点に課題も見出されていたが、全ての教科書で扱っている資料を一覧することもデータベース化することによって可能となる。データ検索とともに蓄積も可能になる点は、学習指導案活用にひろがりが見られる。さらに、こうした扱いは、教師の指導ツールとしての可能性を開くばかりではなく、子供の立場から見ても、有効な学習ツールになると考えられる。例えば、学習指導案そのものに子供の作品等が保存されるとすれば、それ自身が子供の学習履歴となっていくのである。

以上の成果を踏まえて、今後の研究としては、板書型指導案の様々なパターンの可能性を実践的に検討していくとともに、それらの発展として学習指導案全体の再構築を行い、新しい形式と活用法の提示に向かうことが課題だととらえている。

註)

「ラーニングスケッチ」の用語に関しては、根本ら（2009）の報告で扱っている「学びのスケッチ」とは異なる（①）。

本稿では、2014年度K市立K小学校（K市パイロットスクール事業）での取り組みを始めとし、2015年度兵庫教育大学附属小学校「実践交流会」（2015.7）やネットひょうご（日本生活科・総合的な学習教育学会兵庫県支部）夏期研修会（2015.8）などで取り扱っている、いわゆるビジュアル型の「学習指導案」を「ラーニングスケッチ」と称している。また、2015年度の課題研究「ESDからGAPを志向する生活科・総合的な学習の指導力向上をめざして～動的学びを支援する授業デザイン・ツール：ラーニングスケッチを考える～」（日本生活科・総合的な学習教育学会）としても取り上げてきている。学会発表（②～④）においても「学習指導案」を「ラーニングスケッチ」として同様の扱いをしている。

- ① 根本淳子・小山田誠・柴田喜幸・鈴木克明（2009），「学びのスケッチ」でリフレクションを促す試み，教育システム情報学会研究報告24（4），70-73
- ② 溝邊和成（2016）動的学びを支援する活動可視型学習指導案の構想，日本理科教育学会全国大会論文集66，p.354
- ③ 溝邊和成（2016）動的学びを支援する活動可視化型学習指導案「ラーニングスケッチ」の進化，第25回日本生活科・総合的な学習教育学会全国大会発表要旨集，p.237
- ④ 森川茂樹・溝邊和成・田中吾子（2016）子どもと教師が主体的に気付きにせまる授業の工夫ー「ラーニ

ングスケッチ」の活用ー，第25回日本生活科・総合的学習教育学会全国大会発表要旨集、p.238

引用・参考文献

- 安達正博（2009）板書型指導案を提案する，社会科教育 46(5)，pp.17-20
- 中村哲也（2015）学習内容を確実に身に付けさせる指導と評価：板書型指導案の取り組みを通して，日本数学教育学会誌（臨時増刊）総会特集号97，35，2015
- 前原隆志（2016）板書型指導案に関する一考察，山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要，第42号，pp.11-20
- 松田雅代・溝邊和成（2017）ビジュアル化学習指導案作成に見られる教師の意識，兵庫教育大学学校教育学研究30，119-126
- 文部科学省（2018）小学校学習指導要領
- 山口県教育庁義務教育課:板書型指導案活用のすすめ
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/c/0/9/c09b1410329a2668b208fd359302bdd7.pdf>
- 山口県教育庁義務教育課:平成27年度授業づくり拠点校研修会事例集
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a50900/jyugyoudukuri/201603240001.html>
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/e/6/1/e61a3bd9e313b8cf2a881b59525466ee.pdf>
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/c/6/4/c644cc1350a94c34c67e29f0c2e5a77b.pdf>
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/7/f/7/7f71b56ea4426fd7f3f49387248230cc.pdf>
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/c/3/8/c38e33f32edcfd5655b68ace57220ed2.pdf>
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/b/c/0/bc0442b896696932ae3d079ebe30461b.pdf>
- 北海道社会科教育連盟：社会科板書型指導案
<http://www.school-ed.jp/shi-sharen/sidouan>

謝辞

本稿執筆にあたり、山口県教育庁義務教育課（「授業づくり拠点校研修会」主催）の職員の方々から、情報を提供していただきました。また、北海道社会科教育連盟所属の教員ならびに北海道 S 市内小学校の教員の皆様にご協力をいただきました。心より深く感謝申し上げます。

付記

本報告は、挑戦的萌芽研究（課題番号16K13574、研究代表者：溝邊和成）の助成を受けている。

表1 板書型指導案1の分析結果

No	学校名	教科	学年	形式	第1エリア	第2エリア	第3エリア	備考
1	I市立A小	国	2	準拠 B	1ねらい 2準備物 3評価	縦書き	縦書き 本時の流れ(学習活動・ 内容 指導上の留意点)	
2	I市立A小	国	5	準拠 B	1ねらい 2準備物 3評価	縦書き	縦書き 本時の流れ(学習活動・ 内容 指導上の留意点)	
3	S町立M小	国	3	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	縦書き	縦書き 本時の流れ	
4	K市立H小	国	3	準拠 B	1主眼 2準備物 3評価	縦書き	縦書き 本時の流れ(導入・展 開・終末)	
5	K市立H小	国	5	準拠 B	主眼 評価	縦書き	縦書き 本時の流れ(導入・展 開・終末) 評価:記号表記	
6	Y市立O小	国	4	破格 A	1単元名 2ねらい 程 5指導上の留意点	3準備物 4学習過 6評価	下部分:板書(写真:縦書き)	「二」タイプ※1
7	M市立I小	国	2	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	縦書き	縦書き 本時の流れ 発問:吹き出し	
8	M市立I小	国	4	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	縦書き	縦書き 本時の流れ 指示:吹き出し	
9	M市立I小	国	6	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	縦書き 資料3枚 (絵)	縦書き 本時の流れ 発問・指示:吹き出し	
10	S市立T小	国	1	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	縦書き	縦書き 本時の流れ 時間表記	
11	N市立M小	国	6	破格 A	主眼	縦書き 黒板両 横:ホワイトボード	縦書き 授業の流れ・指導上の留 意点	「三」タイプ※2
12	I市立A小	算	2	準拠 A	1ねらい 2指導上 の留意点 3評価	イラスト3枚	3区分	
13	I市立A小	算	5	準拠 A	1ねらい 2指導上 の留意点 3評価	ナンバリング	本時の流れ、大切にしたい考え	
14	T町立O小	算	6	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		4区分 発問・指示:吹き出し	
15	S市立K小	算	2	準拠 A	1主眼 2研究主題 とのかかわり(本時) 3評価	イラスト2枚	3区分	
16	H市立N小	算	6	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点(支援①～④) 3評価		3区分 時間表記、支援①～④表記	
17	S市立T小	算	5	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		本時の流れ	
18	S市立O小	算	4	準拠 B	1本時のねらい 2 指導のポイント 3 評価 4学習の展開			「L」タイプ※3
19	H市立T小	算	4	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		学習過程	
20	H市立A小	理	6	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	図	本時の流れ	
21	I市立I中	国	3	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	縦書き グレー色	本時の流れ	
22	Y市立Y中	国	3	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	縦書き	縦書き 本時の流れ 発問・指示:吹き出し	
23	S市立T中	国	1	準拠 A	1主眼 2準備物 3評価	縦書き	縦書き 本時の流れ、時間表記	
24	H市立K中	国	1	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	縦書き	縦書き 本時の流れ	
25	U市立M中	国	3	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	縦書き	縦書き 本時の流れ	
26	S市立T中	国	1	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	縦書き	本時の流れ 発問あり	
27	H市立H中	国	1	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	縦書き	縦書き 本時の流れ 発問指示あり、時間表記	
28	I市立A中	数学	2	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		本時の流れ	

小中学校学習指導案の表記に関する工夫

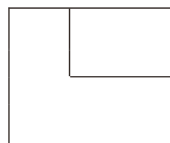
29	H町立H中	数学	1	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		本時の流れ	
30	S市立S中	数学	3	破格 A	1主眼 (ねらい) 2 めあて 3板書計画 および留意点		授業の流れ・留意事項	「三」タイプ ^{※2}
31	S市立S中	数学	3	破格 A	1主眼 (ねらい) 2 めあて 3板書計画 および留意点		授業の流れ・留意事項	「三」タイプ ^{※2}
32	Y市立K中	数学	2	破格 A	1単元名 2主眼 3単元計画 4本時の 流れ	黒板：写真		「L」タイプ ^{※3}
33	S市立T中	数学	1	破格 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価	板書：2列	本時の流れ：2列	「リ」タイプ ^{※4}
34	S市立G中	数学	1	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		本時の流れ	
35	A町立A中	数学	3	準拠 B	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		本時の流れ 時間表記	
36	I市立K中	理科	1	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		本時の流れ	
37	Y市立Y中	理科	2	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		本時の流れ	
38	H市立A中	理科	3	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		本時の流れ	
39	Y市立K中	理科	2	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		本時の流れ	
40	U市立K中	理科	2	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		本時の流れ	
41	S市立A中	理科	3	破格 A	1主眼 2本時の流れ 3指導上の留意点 4評価			反「に」タイプ ^{※5}
42	N市立H中	理科	1	準拠 A	1主眼 2指導上の 留意点 3評価		授業の流れ 時刻表記	



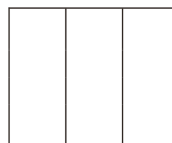
※1 「二」タイプ



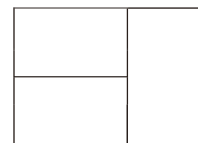
※2 「三」タイプ



※3 「L」タイプ



※4 「リ」タイプ



※5 反転「に」タイプ

図3 破格Aの分類